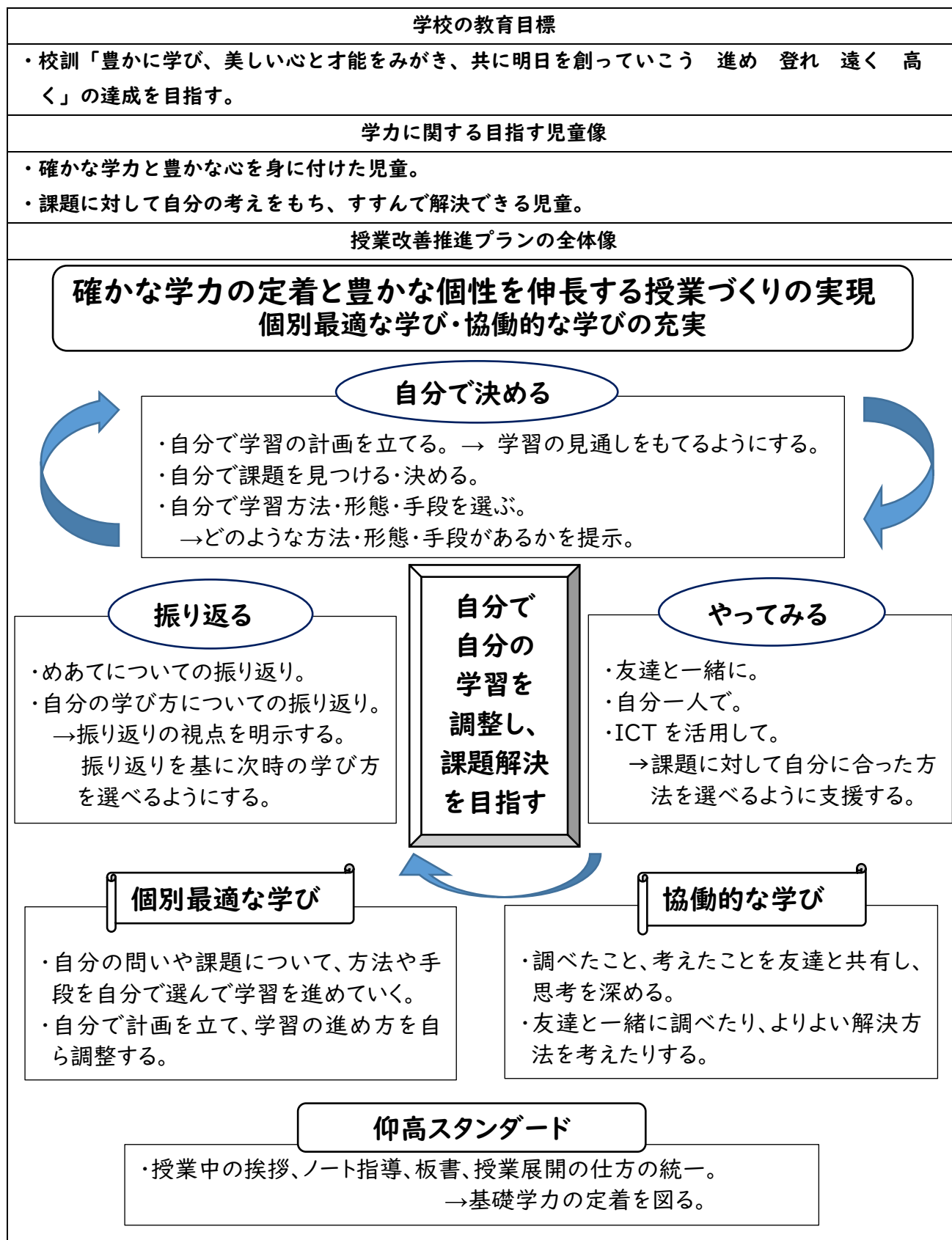


学校名	豊島区立仰高小学校
校長名	仁科 光一



令和6年度 授業改善推進プラン（各教科）

I 国語科

目指す児童像を基にした国語科での育成したい資質・能力		
・人と人との関わりの中で、思いや考えを伝え合う力を高め、言葉を手掛かりとしながら論理的に思考する力や豊かに想像する力を養う。 ・言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、その能力の向上を図る。		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	・自己紹介しあったり、好きなものを伝え合ったりする中で、伝えたいことが言葉にできない児童もいる。	・友達の考えや教科書を参考にする、周りの児童に聞いてみるなど選択肢を提示して、自分の思いを伝えられるように、手立てをする。
低	・ひらがなや漢字の定着について、個人差があり、日常生活の中で正しく使えていない。 ・語彙が少ない。	・まず書く→ポイントを見付ける→もう一度書くのサイクルで学習したり、字のポイントを児童自身が発見して伝えたりしていくなど、主体的に学びながら、定着を図る。 ・司書と連携を図り、学習内容に沿って並行読書を活用していく。その際、自身が読みたい本を選択できるよう、難易度別に用意したり、こちらから紹介したりする。
中	・他の児童の発言に対して、「同じです」やハンドサイン等で反応することはできるが、その内容について深めるための話し合い活動は行えていない傾向がある。 ・読書量に顕著な差が見られる。 ・語彙力は高まっているが、更に高めていく必要がある。	・相手の意見を聞いて、考えを広げられるような指導を行う。学習活動を通して、対話することの楽しさに気付いている児童が多くいるので、それを深められるように教師の言葉かけを行う。 ・本に親しめるようにする。図書の時間の確保と充実を図る。 ・文語調の言葉の響き（詩の単元等を通して）が味わえるような課題を設定する。 ・自学で四字熟語、ことわざ等に取り組んでいる児童のノートを共有する。
高	・5年連用修飾語の問題のみ、全国正答率を下回っている。 ・領域別で見ると、「漢字の読み書き」が弱い傾向がある。 ・「主体的に学習に取り組む」の評価が低い児童が、知識や思考の評価も低い傾向がある。	・修飾語は、教科書の言葉の学習で扱う以外にも、説明文などで意識的に取り上げるようにする。 ・ドリルパークの課題配信を活用して、前年度の漢字を含めた復習ができるようにする。 ・課題に対して自分に合った方法を選ぶ学び方を積極的に取り入れる。そのことで、教員が課題のある児童へ個別に関わる機会を増やし、「主体的に学習に取り組む」意欲を育てていく。

2 社会科

目指す児童像を基にした社会科での育成したい資質・能力		
・資料からの読み取り、資料を活用する力を養う。 ・社会的事象に対する自分なりの考えをもたせ、自分事として捉えるようにする。		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	・資料の活用がうまくできていない。 ・地図を見たり、活用したりする経験が十分ではない。 ・自分の身の回りのことに対しては、イメージをもって考えることができるが、生活圏から離れると自分事感が弱くなる。 ・自分が関わっている、社会の一人であることに気付き始めている児童が増えてきている。	・「資料を見るポイント」の指導を適宜行う。 ・自分で考え、やってみるという経験を増やす。 ・自分事と捉えられるような学習課題を設定→本当にできるかと問うことで、課題解決の方法を深く考えられるようにする。
高	・高学年は、知識・技能、思考・判断・表現が区の平均正答率より若干高い。 ・資料からの読み取りが出来る児童が多いが、個人差が大きい。 ・自分の考えをもち、自分事として取り組める児童が多いが、個人差が大きい。	・児童の意見の違いを生かしながら、課題を設定させる。 ・自分の言葉でまとめを考える。 ・様々な種類の資料を活用して調べ、他の児童と情報を交換する。 ・身近な社会的事象に関する資料を、ねらいを明確にして提示する。 ・児童が比較・関連を通し、自ら課題意識をもって取り組めるようにする。

3 算数科

目指す児童像を基にした育成したい算数科での資質・能力		
・実際の問題を解決する際に、的確かつ能率的にできるようにし、日常生活や社会における事象を数理的に捉え処理できる力を養う。 ・見通しをもち筋道を立てて考え、いろいろな性質や法則などを発見したり確かめたり、筋道を立てて説明したりできる力を身に付ける。		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	・数量感覚や数字の読み書きにおいて、個人差が大きい。	・個別の学力を把握し、個に応じた指導をする。
低	・長さ、かさ、時刻と時間の知識・技能の定着が不十分である。	・反復練習や家庭学習に取り組ませる。 ・具体物や反具体物を活用して、視覚的に考えたり体験を通して量感を養ったりできるようにする。

中	- 区学力調査でも「知識・技能」の正答率が高いが、データの活用は区の学力調査でも他の領域より正答率が低い。 - 長さ、かさ、重さに関する知識・技能の定着が不十分である。	- 問題文の内容を的確に読み取り、資料と合わせたり、図を描いたりしながら複合的に考える問題や学習を意図的に増やし、見通しをもち解決する力を高める。 - 身の回りのものを測るなど体験的活動を取り入れたり、身近な生活の中のものの量を普段から意識させたりして量感を養い、知識を定着させていく。
高	- 小数・分数の意味や計算についての理解が不十分である。 - 与えられた情報から、基準量、比較量、割合を求める問題の演算決定について課題がある。 - 角の大きさ、立体と体積など、図形についての知識が定着していない。	- 繰り返し計算練習を行い、知識の定着を図る。 - 問題文や資料からわかっていることを数直線に表して立式させることで、情報を正確に読み取り、立式できる力を高める。 - ICTを活用したり、具体物を使ってそれぞれの性質を押さえたり、実際に角を描いたり測ったりする活動を増やし、実感をもって知識を身につけられるようにする。

4 理科

目指す児童像を基にした理科での育成したい資質・能力		
- 自然の事物・現象についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けたり、問題解決の力を養う。 - 自分で実験計画を立案したり、ICTを活用して実験結果を共有したりして自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を養う。		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	主体的に自然に関わったり、守っていかうとしたりする姿が見られる。一方で、それが知識として身に付きにくい傾向がある。	- 体験に基づいた知識の構築ができるようにする。 - 生活体験と自然事象の結びつきを高める。 「予想・計画・実験・考察」の授業展開の徹底、定着を図る。特に「予想」を大切にしたい指導を行っていく。
高	- 知識・技能や思考・判断・表現のポイントは、区の平均より高い。 - 一方で、主体的に取り組む態度は、5年が全国の平均より2.5ポイント下回った。 - 理科を苦手としている児童が多い。	- 事象提示を工夫して、問題作りを行う。 - 実験計画を立案させ、児童同士で話し合いを行う。 - 実験器具を問題に応じて選択できるようにする。 - 問題解決を意識できるように黒板に流れを提示する。 - 児童が、自分たちで結論を出せるように考察の時間を十分に確保する。

5 生活科

目指す児童像を基にした生活科での育成したい資質・能力		
・活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けさせる。 ・身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。 ・身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	・意欲的に学習に取り組む児童が多い。 ・学校生活への適応や友達との関わり方について、個人差が大きい。	・児童の意欲を認めて、積極的に称賛する。 ・個々の様子をよく見て、必要な児童には個別に声かけをする。
低	・活動自体は興味をもって楽しく取り組む子が多い。 ・自分との関わりまで思考することが難しい。	・単元の中で、題材との関わりに目を向けるような発問をしたり、単元末の振り返りで自分の関わりについて考えさせたりする。

6 音楽科

目指す児童像を基にした音楽科での育成したい資質・能力		
・音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる力を養う。 ・曲想と音楽の関わりについて感じ取ったり理解したりするとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を養う。 ・音楽表現を工夫したりすることや、音楽を味わって聴いたりすることができる力を養う。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	・音楽を感じ取って体を動かす活動に意欲的に活動したり、リズムののって歌ったりする一方、人前で自分の作った演奏を発表したりする学習に課題がある。	・短いフレーズをペアで見合ったり、少ない人数で発表したりすることで、人前での演奏に慣れるようにする。 ・ペアやグループでの発表の機会を設定し、協力して音楽を作ったり、教え合ったりしながら学習する体験を積んでいく。
中	・歌唱の学習に対する意欲があり、歌声の音色を意識できるようになってきた。器楽の学習では、リコーダーを意欲的に取り組む児童が多い一方、技能面の差が大きくなってきている。	・困難なフレーズを短くしばって練習し、集中して取り組めるようにするとともに、できたという達成感を感じられるようにする。 ・ペア学習やグループ学習を適宜取り入れ、教え合いながら活動できるようにする。

高	・美しい歌声を意識できる児童が多い一方、豊かな声量で自信をもって歌うことに課題が見られる児童も多い。 ・器楽活動における技能面の差が大きい。	・美しく豊かな歌声が出せるよう、体を使った発声を取り入れる。 ・ペア学習やグループ学習を適宜取り入れ、教え合いながら活動できるようにする。
---	---	--

7 図画工作科

目指す児童像を基にした図画工作科での育成したい資質・能力		
・造形的なよさを感じとる心を育み、題材に対して、表したいことや表し方への考えや思いを深め、材料と関わり、試行錯誤しながら創造的な発想で作り作りかえていく中で、唯一無二である確かな自分の思いをもてるようにする。 ・造形的な見方、考え方を働かせ、私たちの暮らしの中の色や形などのよさを感じ取り、暮らしを豊かにする感性を育む。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	・絵や立体に表す題材や、ふり返り等の課題への理解が不十分な為に、めあてにそった活動ができていない児童が多い。	・題材や課題を伝え、指導するときに、例示するだけではなく、確かめのための発問をし、題材や課題で求められるていることを考え気付かせるようにする。 ・題材については、例示作品から、求められるていることを考えさせるようにする。
中	・絵や立体に表す活動では、全体的に意欲的は高いが、表したいことを、さらに深めていこうとする意識が希薄な児童が多い	・材料と十分に触れ合う時間を取り、材料のよさや材料の可能性を感じたり考えられるようにする。 ・道具や用具の使い方、表し方の技法など学びを充実させ、自ら考え、進んで表したい思いをさらに広げられるようにする。
高	・絵や立体に表す活動では、表すことを楽しもうとする雰囲気はあるが、題材の意図や学習のめあてを理解し、深い学びにつなげることが難しい児童が多い。	・授業規律への意識を高める言葉がけを行い、個々集中して作品と向き合う授業環境づくりすることで、学びある中での楽しさを感じられるようにする。 ・道具や用具の使い方、表し方の技法など学びを充実させ、自ら考え、進んで表したい思いをさらに広げられるようにする。

8 家庭科

目指す児童像を基にした家庭科での育成したい資質・能力
・家庭生活の多様化や消費生活の変化等に加えて、グローバル化や少子高齢化の進展、持続可能な社会構築など、今後の社会の急激な変化に主体的に対応することができる力を養う。 ・課題について、自分の生活経験と関連付け、自分事として、解決方法を考える力を高める。

学年	現在の状況	改善のための取組
高	・児童の関心は高く、学習した内容を実生活に活かそうとする姿も見られる。 ・生活経験や、自分事として考え実践しようとする力の差がある。 ・ミシンを扱う学習などにおいて、保護者や地域のサポーターを積極的に活かすことができていない。	・タブレット PC やモニターなどの ICT 機器を活用することにより、製作に必要な縫い方及び用具の安全な扱い方に対する知識・理解を深められるようにする。 ・児童同士のかかわりを充実させることにより、獲得した知識を活用して判断し、互いの技能を高める学習展開をする。 ・保護者や地域のサポーターに協力を得ながら、個々の課題に応じた学習を展開する。

9 体育科

目指す児童像を基にした体育科での育成したい資質・能力		
・特性に応じた各種の運動の行い方や健康・安全について理解すると共に、自己の課題を見付け、その課題解決に向けて思考・判断し、対話的な活動の中で他者に伝える。 ・運動に親しみ、健康の保持増進と体力向上を目指し、楽しく明るい生活態度を養う。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	・体づくり運動における用具を操作する経験などは個人差が大きい。	・まずやってみることから始め、児童の感覚や実感をもとにして、授業を展開する。 ・児童同士の関わりが増えるように、環境や言葉がけを工夫する。
中	・「楽しさ」が先行してしまい、「安全」にまで意識がっていない傾向がある。 ・自分の状態を正しく把握し切れていない。現状の把握が正しくできていない児童が多い。 ・運動への親しみの差がある。 ・（保健領域）知識としては理解しているが、自分事として向き合っている児童は少ない。	・理想と現実の差を埋めていくための自己調整ができるような授業展開。サポートしていく声かけ、アイテム等の活用。 ・友達と運動することの楽しさを感じられるような、授業展開の工夫をしていく。 ・知識と日常生活が結び付けられるように、授業外でも声をかけていく、広げる。
高	・運動に親しみをもって活動する児童が多いが、質問紙調査では一部否定的な回答をしている児童がいる。 ・技能の差が大きい。 ・技能について他人と比較してしまう児童がいる。	・全ての児童が運動の特性を味わうことができるように、運動内容や授業の展開、支援の方法を工夫する。 ・体育の見方・考え方を活かして学習する。 ・自己の課題を明確にすることで、他人との比較ではなく、自分の課題と向き合えるようにする。

I 0 英語活動・外国語活動・外国語科

目指す児童像を基にした外国語等での育成したい資質・能力		
・（英語活動・外国語活動）外国語の知識を理解するとともに、聞くこと・話すことなどの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を養う。 ・（外国語科）外国語の知識を理解するとともに、聞くこと・話すこと・読むこと・書くことなどのコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付ける。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	・ほとんどの児童が楽しく活動に取り組んでいる。 ・始めて知る言葉でもすすんで言おうとしている児童が多い。一方で、英語を話すことがハードルが高い児童もいる。	・英語で表現する楽しさを感じられるような活動を工夫する。 ・ターゲットとなる表現を、毎時間必ず全員が発話できる機会をつくり褒めることで、児童が自信をもって英語を発話できるようにする。
中	・コミュニケーションを取ることの楽しさを感じている。明るい雰囲気授業を行うことができています。 ・授業に対して、児童の意欲は高く、コミュニケーションの素地はできている。 ・基礎的な理解については個人差がある。	・知識がなくても楽しめるような授業展開の工夫。 ・目的や場所に合った語句を選択できるように、チャンツやゲームを通して反復して身に付けられるようにする。
高	・単元末テストの結果では、「知識・技能」の平均は 94%と高く、「思考・判断・表現」の平均は 88%と概ね高い到達率である。 ・友達や教師とのコミュニケーションをすすんでとろうとする児童が多く、既習の表現を活用する姿も見られる。	・一部の児童だけが答えたり、理解しているという状況にならないように、ペアや小グループで話すなど全員に表現させる方法を工夫する。 ・英語で話された内容を理解し、目的や場面にあった語句や表現を選択する力をさらに身に付けるために、1 往復ではなく 2 往復程度での会話場면을意図的につくる。

I 1 特別の教科 道徳

目指す児童像を基にした道徳科での育成したい資質・能力		
・多様な考えを受け入れ、今後自分がどのように生きていきたいか考える力を養う。 ・道徳的価値に向き合い、よりよく生きるために考え続ける姿勢を養う。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	・他者の考えを受け入れて、適切な関わり方ができない場面がある。	・役割演技等を通して、相手の気持ちを考えた行動ができるように指導する。

中	・題材や価値によって、考え方が様々である。 ・自分の考え以外を受け入れにくい傾向がある。 ・一つの考えに偏ってしまい、多面的・多角的に見ることが難しい。 ・めあては広めに設定すると、意見が出やすい。	・多様な考えが出やすい指導の仕方を模索し、実践する。(発問・授業展開・名前カードの活用) ・振り返りの時間を確保する。 ・児童の発言を価値づける言葉かけを行う。 ・考えの素地はできているので、更に伸ばせるように指導を続けていく。
高	・自分の意見を発表することに抵抗がある児童が多く、発表者が限られてしまう。 ・正解を求めようと自分の本心を言えず、真摯に自分の生き方に向き合えていない実態がある。	・児童の「なぜだろう」「どうして」という思いを引き出す導入をする。 ・個人→ペア・トリオの流れで授業を行い、自分の考えをもってから話し合いができるようにする。

12 総合的な学習の時間

目指す児童像を基にした総合的な学習の時間での育成したい資質・能力		
・探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習を行う力を身に付けさせる。 ・実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、その課題を自分事として捉えて解決しようとする能力を養う。そのために情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 ・探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。 ・自分の健康や安全について課題意識をもち、すすんで解決するために、学校生活や実生活において主体的に取り組む態度を養う。		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	・課題を設定し、それを解決する方法は身に付いている。相手を意識した表現の仕方も高まっている。しかし、収集した情報を分析し、考察に繋げる力はまだ身に付いていない児童が多い。(4年) ・自己の課題を立て、解決することはできている。情報を収集し、発信することができる。(3年)	・ミニ報告会を実施するなど、新たな課題に気付いたり、学び方を学び合える時間となったりするような機会を設ける。 ・この学習を通して「何を学んだのか」を考えさせ、自分事としてを意識させる指導を行う。

高	・課題設定をすることはできている。情報を収集をしたあと整理分析せずにすぐにまとめてしまおうとする様子がみられる。 ・まとめでは、スライドにまとめて発表という単一的なものになっている。	・調べたことを思考ツールを用いて整理・分析する方法を指導し、見通しをもたせる。 ・まとめでは、より効果的な表現方法を選ぶことができるようにする。
---	--	---

1.3 特別活動

目指す児童像を基にした特別活動での育成したい資質・能力		
・多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。 ・集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。 ・自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	・クラスという集団のために自分が出来ることをしたいという気持ちが育ち始めている。	・日々の当番活動については、教師主導で進めていったので、係活動については、児童の自主性を生かせるように指導していく。
中	・学級会において多数決で決めてしまうことが多く、合意形成が難しい場面がある。 ・1学期のめあてに対する振り返りは書けており、考えを深めようとする態度は養えている。	・提案理由や話し合いのめあてを設定し、それらに沿った理由を検討していく話し合いにしていける。 ・当番活動や係活動での集団活動を大切に、キャリア・パスポートやめあてカードをより効果的に活用していく。
高	・学級会での話し合いの仕方を理解し、意欲をもって学級会に参加しようとする姿が見られる。しかし、自分たちで時間を考えながら行うことには課題が見られる。 ・係活動や当番活動は進んで行っている。	・学級をよりよくしたいという意識をもたせ、気軽に自分の意見を出せるように、教室掲示を工夫する。また、児童が企画運営、最後の振り返りまで自分たちで行うように指導する。 ・学級活動の年間計画を見直し、計画的に指導していく。